

第98回例会



新春コンサート

いわお

大阪

「古澤巖 with はたけやま裕バンド」

1月21日・22日 いずみホール

新春のコープシアターは、定例となりつつある「いずみホール」で幕が開いた。NHK・Eテレの「旅するイタリア語」にも登場のバイオリニスト・古澤巖。1979年日本音楽コンクール第1位。桐朋学園大学を首席で卒業、小澤征爾の推薦でダングルウッド音楽祭のコンサートマスターを務めた。1986年には同大学1年生だった葉加瀬太郎とジプシーバンドを結成。クラシックのみならずいろいろなジャンルの音に挑戦する。子どもの頃、彼の父親がオーディオマニアであったために家に音楽が流れない日はなかったという。彼はあらゆる音楽をシャワーのように浴びて育った。演目の中の「チャルダッシュ」は、彼が学生の頃はクラシックではないと教授に言われ演奏禁止だったこともあった。今やコンサートにな



バイオリニスト・古澤巖



パーカッション・はたけやま裕

くてはならない曲である。いい曲はジャンルを超えて良い！そんな彼の今夜の出で立ち、つば広の帽子、カラフルなスカーフは楽器の顎あてに。曲目によってスカー

フを替えるのもこの人流。そんな彼を100パーセント支えるピアノのKeiko、パーカッションのはたけやま裕とベースの節島裕治。ニューシネマパラダイスがスタート、手のひらから砂金がこぼれ落ちるような繊細なトライアングルの音色とバイオリンの融合、MCも楽しく、作曲者にまつわる知識の深さにも肯かされた。ヴィヴァルディの四季「冬」や「チャルダッシュ」の技巧にこの弾き手によってこそ、このバイオリンは歌えるのだと教えられた気がした。(はるる)

あなたもごいっしょに

コープシアター大阪

新会員募集中

パルコープの組合員さんと、その家族なら誰でも入会できる積立式の鑑賞会です。年3～4回の例会があり、さまざまなジャンルの舞台を生で楽しめます。

●入会金2,000円 月会費1,050円

会費は毎月生協の登録口座から引き落とし
※基本は3人以上のグループ加入ですが、1人からでも加入できます。

●問い合わせ 組合員活動部
☎06-6242-0904 FAX06-6242-0926

これからの例会のお知らせ

第99回例会・人形劇『あぶないふたり』の公演を、今年6月開催と案内しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により延期とさせていただきます。楽しみにしていただいた組合員さんには申し訳ありません。

日程については来年を予定しています。また詳しい内容については今後の機関紙はるタイム・パルコープホームページでご案内いたしますので、そちらをご覧ください。

3月度の委員会の主なとりくみ(2/21～3/20)

とりくみ内容別	委員会数	参加人数
産地工場見学	1	18
合 計	1	18



不二製油見学
2月21日 ぐずは地域活動委員会(枚方市)

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため2月24日から組合員活動を中止。
※これから開催されとりくみのお知らせは、該当地域の共同購入・個配の組合員さんに別チラシでお届けいたします。

『戦争と農業』の著者から学ぶ

京橋事務所(本部)
参加113名(組合員活動委員)

2019年度
第7回
推進学習会
(2月12日)



講師の藤原さん

本来、人間の生活を豊かにするはずの農業技術の発展は、農家の生活や農業スタイルを一変させたのと同時に、戦争のあり方を大きく変えることになりました。今回は農業史の視点から、戦争と科学技術の関係について研究しておられる京都大学人文科学研究所准教授・藤原辰史さんを迎えて学びました。

第一次世界大戦では、武器の技術発展によってそれまでの戦争にはない大量殺りくを可能にし、残虐さを増し、生き延びても心身ともに大きく傷つき帰還後も苦しみが続くという、悲惨な歴史があります。その武器は今、私たちの食を支えている農業技術と密接な関係にあると言います。『トラクター』をヒントにしてできたものが『戦車』。イギリスでは当時売り出されていたトラクターのキャタピラーに目をつけ爆弾でボコボコになった場所でも進んでいく戦争になりました。ドイツ

では狭い痩せた土地でも大量生産できるよう生み出された『化学肥料』が戦場で使われる『火薬』に。チッ素肥料を作る工程は火薬を作る工程と同じで、同じ工場で生産していました。戦争で余った『毒ガス』は害虫駆除が容易にできる『農薬』に。さらに第二次世界大戦の時ドイツのナチス軍が農薬『チクロンB』を強制収容所でユダヤ人殺害に使用しました。「このようなふたつの顔を持つ技術が私たちを支えているという現状は、もはや変えることができません。しかし、普段食べている食べ物、どんなもので作られているかを知り生活することによって、日ごろから世の中を意識し、生活を見直すことで文明を変えることにも繋がります」と藤原さん。

参加者からは「有機農業は家族の健康のためだけでなく、社会にとっても生き方をかえるひとつのきっかけになるという話は新鮮でした」「ドイツではナチスの歴史をしっかりと反省しているようだが、日本は過去を振り返り反省するのが苦手。過去の反省なくして未来はないと伝えたい」など感想が出されました。

おおさかパルコープ 暮らしのたすけあいの会 主催
キャッシュレス時代をどう暮らす

2月21日 京橋事務所(本部) 参加70名



ナードで消費生活相談員もされている大久保育子さん。『キャッシュレス』は私たちの生活で身近なものになってきています。クレジットカードやデビットカード、電子マネー、スマホ決済(ペイ払い)などありますが、日本では5割以上の人が使っていると聞かれています。特典やポイント還元などお得な面もありますが、それぞれ特性をよく理解して管理できる範囲で利用しましょう。『カードを手元に『保管』しているから『管理』できている』というのは間違いです。悪用されるときはそんなものではないからです。使わないものは解約する、パスワード・暗証番号は使いまわ

くらしのたすけあいの会では、年に2回、会員さんが集まって話題の事柄などを取り上げた学習会を開催しています。この日は一般組合員さんにも呼びかけ、一緒に学びました。講師は、ファイナンシャルプラン

くらしのたすけあいの会

パルコープの組合員が行う、有償の活動。「家事援助」の範囲で、平日の1単位2時間、週4日までの活動をしています。(産前産後の家事援助、高齢者の方の家事援助、草取り、通院の付き添いなど) 援助希望者(利用会員)からの依頼を受け、コーディネーターが具体的な調整を行い、活動会員が援助活動します。

たすけあいの会では会員を募集しています

詳しくは
問い合わせ先 おおさかパルコープ福祉事業部
☎0120-294-044 FAX 06-6242-0885 (月～金 9時～17時)



さない、利用履歴をこまめに確認する、利用規約をよく読む(特に補償内容・免責事項)などでトラブルを防ぎましょう。スマホ決済では、『ペイ払い』以外にも、SNSスタンプ購入などスマホ通信料と一緒に払う『キャリア決済』というのもあり、自分が知らないうちに使われてしまうトラブルも増えています。スマホの設定で利用制限もできるので不要な機能やサービスを見直すことも大切です。参加者から「勉強になった。またやってほしい」の声が多くありました。